# 仏法領

ぶっぽうりょう

第68号

発行：真宗大谷派
念信寺
〒824－0202
福岡県京都郡みやこ町犀川上高屋761
☎ 0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshinji.org

お米は人の手で作られている
機械化が進んでも
化学薬品が出来ても
人の手で大切に作られている
作り手は　食べる人を想い
今日も田んぼに立つ

（写真・文　大迫光浩）

（伊都　安蔵里）

（糸島　龍国寺様）

## 水と空気と大地

5月のある日、糸島の龍国寺さんにお参りする機会がありました。訪問後、お礼をメールしました。

先日はお世話になりました。宗派の違いはありますが、お寺の佇まいや歴史、社会とのかかわり、お寺を預かることを大切にしている姿勢や、生活の様子などに接することができ、お陰様でいろいろ学ばせていただきました。

特に念信寺の場合、過疎・高齢化の課題を抱えて、農業とのかかわりがポイントでないかと思います。何かヒントをいただければと思います。今後ともよろしくお願い致します。

真宗大谷派　念信寺　村上匡一

龍国寺さんのご返事。

先日はお越しいただきありがとうございました。宗派をこえて、ブッダの教えを実践していきたいと思います。過疎・高齢化は私たちの村も同様です。でも清き水と澄んだ空気と大地があれば何とかやっていけると前向きに考えています。

昨年より村の田植えや稲刈りを子供たち（子供会）と一緒に手伝わせていただいています。子どもの声ってやっぱり大人のやる気に火をつけてくれますね。

曹洞宗　龍国寺　甘蔗健仁

龍国寺さんは、素晴らしく手入れの行き届いた庭と建物。しかもお母様は30年前、チェルノブイリ原発事故の後、『まだ、まにあうのなら』（地湧社）を書いた甘蔗珠恵子さんでした。当時、その講演を聴いたことがあり、事故の重大性、衝撃は今でも心の奥深くに残っています。原子力に対して複雑な思いを持ちつつ、結局、福島の原発事故を招いてしまい、危機は未だ進行中です。

糸島市は、福岡市近郊で歴史もあり、今、ブームになっていて、みやこ町とは条件が違い、町おこしについても少しうらやましく思っていました。しかし、この地区では工業団地や先進的な実験施設建設の話が度々あったにもかかわらず、人々は経済よりも水と土と空気を守ってきたのです。

この地区にかぎらず、人はお金のためだけに農業をしているのではないと思います。水と空気と大地の恵みとつながるいのちの営みの大切さを教えられます。

## 阿弥陀様が帰ってこられました！

今月6月7日に滋賀の楽浪文化財修理所から、ご本尊が修理されて帰って参りました。住職が自家用車でお迎えに上がりました。

漆をはいで解体・補強し、彫刻のひだやお顔立ちをすっきりさせました。県とみやこ町には文化財修理の報告書を提出いたしました。

## 上高屋仏教婦人会追弔会

3月21日

## 雲南省お米作りの話

米について何か書けとのご下命で、稲作体験を書いてみたい。

一昨年（二〇一五）、友人が中国雲南省を旅行してその土産として、一合位の雲南省米の籾をくれた。物好きだから作ってみようということにした。

苗作りから始めた。田植え時期には近所の農家の田圃の一画に二百株ほどの苗を手植えした。田作りの手間は一切ない。農家が田植えした一画に混じらないように四隅に竹を立てて区画しただけ。

苗の成長は早い。日本米の背丈は平均七～八十㌢なのに、雲南米は一m五十㌢にもなった。田圃の一画に草が飛び出て植わっているものだから、近所の七町も作る農家の親父さんは、米だとわからず、「阿部さんなまた何の雑草を植えたんかい」、と不思議に思っていたらしい。

周りの日本米はたわわに実り、刈り取ってしまったのに我が雲南米は穂も出てこない。結局二十日ほど遅れて実った。

百五十㌢も丈があるから、日本製稲刈り機は役立たない。足踏み回転式脱穀機、千把こぎがある訳でないし、結局手でしごいて籾にした。指からはマメが破れて血がでた。

乾燥は天日。籾は籾すり機を持つ農家に頼んだ。収穫は、玄米三キロだった。

米はいわゆる外米で、長粒、パサパサの味悪るを想像していたが、予想に反して、日本米とあまり変らなかった。握り飯にして十五人位で食ったが、一様に美味い日本米とかわらないと感心していた。

友人は、今年（二〇一六）は作らんのかという。去年握り飯にして食い尽くしたので種籾がなく、作れるわけがない。

雲南省米作りの経験者は日本では私ひとりかもしれない。

**雲南省米作りの結論**

一、穂が長すぎてどうにもならない。風が来ればもたない。

二、味はまあまあ食べられる。遜色なし。

三、日本での作付けは、農水省、農協が許さないでしょう。

日本米と雲南米の背丈差を見て↑

（阿部正紀・記）

## 上高屋のお米

念信寺の位置する上高屋地域は水田面積40町歩とも言われています。仮に1反当たり7俵の収穫としますと、年間約2，800俵となります。「上高屋のお米は美味しい！」と言われています。多くは皆さんの親戚、知り合い、農協ルート、業務用等へと流通していると思います。

昨年秋に、念信寺の町おこしイベント「来てみてギャラリー」で使用された緒方義則さんちの減農薬米、H　さんちの棚田米も美味しいと好評でした。皆さんのお米作りにかける情熱と努力は本当に頭が下がります。ことに緒方さんのお米は食味値で大変高いのだそうです。米作りの基本は「土作り」とお聞きしたことがありますが、ほかにも多くのノウハウがありそうです。

休日に農業するのが楽しみ

一方では、土地改良による大規模化や機械化による効率アップも進んでいますが、農事を担う人の高齢化も大きな地域の悩みであろうかと思われます。

他地域での「営農」「農事会社」にあたる組織も存在していないようです。新しい流れを作るのは大変な情熱が必要かと思います。美味しいお米がいつまでも食べられますようにと田植えの光景を見て感じました。合掌

いつものおいさん

## 農業を生きる

### 紘ちゃんのひとり言

我が町、添田の田植えは、4月中旬から始まり5月いっぱいでだいたい終了する。後は、さなぼり（皆作）が楽しみであるが、近年ジャンボタニシの食害が問題になっている。

代かき時の均しが悪いと、てきめんに被害を受ける。また、田植え後は水管理を慎重にしないと、大きな被害を受けることとなる。しかし悪いことばかりではない。管理さえうまく行えば雑草を食べてくれるので有り難い事もある。

昨日は、鹿に苗を食べられ、慌てて網を張っている現場に出くわした。山間部は殆ど鉄網を張り終わったので被害はなくなったが、今度は平地に被害が移ってきたようだ。

私の地区は、初期の鉱害復旧で原形復旧が基本の時代に行った事業であるため、農道は大型機械が通れず、水路は殆どの田が充て越しであり、安全面、採算面に問題山積である。遅ればせながら、国の圃場整備事業で圃場整備をやるべく農家の協力を求めているが、すんなりと話が進まず苦労している。

先日の農業新聞の記事では、中間管理機構に預けると地権者の同意がなくても、又地主の負担を求めず圃場整備を行う事業を、30年度に制度化する動きがあり、引き続いての記事では、公平を計るために、中間管理機構に預けない従来型の圃場整備事業も、地主の負担なしでやれるような話し合いが進んでいるようだ。

明るい話もある。希望を持って頑張ろう。

（尾形　紘光）

# 今回は築上町袈裟丸にお住いのY・Sさんをご紹介いたします。

まず京都郡の人たちにとっては袈裟丸とは馴染みのすくない地名だと思われますので、袈裟丸から紹介いたしましょう。

犀川からは郡境の輪成（わなれ）峠を越えると築上郡の深野に出る。さらに城井川を下れば安武に着く。深野、安武は知っている方が多いと思います。その深野と安武の中間にある所が袈裟丸です。

それにしても最初から袈裟丸とはなんだか仏縁が深そうです。

Y さんは昭和八年生まれ、現在八十四歳とのこと。

写真をご覧いただいてもわかるかと思いますが、肌艶はご立派で立ち姿も問題なさそうです。現在のところまだデイサービスなどは頼る必要はないとのことでした。

袈裟丸に嫁いできてから六十四年経つそうです。

義母に当たる方もそのお母さんも非常に熱心な念仏同行で、念信寺の御正忌には四日でも五日でも泊まり込みでお参りしていたそうです。

残念ながら、ご主人は昭和五十五年に四十九歳で亡くなられ、さらに痛恨なことは次男の息子さんに先立たれたこと。もう七年にもなるとのことでした。

現在は長男夫婦、お孫さんと一緒に暮らしていらっしゃるが、なによりもうれしいことはお孫さんには要請も強制もしていないのに、勤めにでかける前と帰宅してからはどんなに遅い時間でもかならず仏さまにお参りするそうです。素晴らしいことですね！

これぞ義理のお母さん、そのお母さん、S さん、息子さん、お孫さんと連綿と続いて念仏が正しく相続されているなによりの証だと思います。

久しぶりにいい話を聞いた思いがいたします。ありがとうございました。

これからもまだまだお元気でお過し願いたいものです。

合掌

（阿部正紀・記）

S さんの義母、S母さんは90歳で命終されたが、晩年まで毎年必ず泊まり込みでお参りなさっていた。生まれたばかりの私を門徒で取りあげた最初の人で、それが自慢で御正忌にはいつもケーキを持ってきて下さっていた。というのも、12月22日、昔の念信寺の御正忌報恩講の真っ最中に私は誕生したのだ。人々の共感に支えられ、いのちは己の所有物でないことを身をもって教えていただいた。

S さんは、築上郡のお念仏の土徳を身につけて、障りなくしっとりとしておられる。人は美しく歳をとるのだということを教えてくださる方である。ナムアミダブツ。住職

# 春のお彼岸 法要のレポート

**日時**　三月二十六日～二十八日
**講師**　祖父江　佳乃先生
（名古屋市　有隣寺住職）

昨年に続きのご登場です。お祖父さんが高名な布教使だったそうで、佳乃先生のお話も親鸞聖人のお話が多く出て参ります。

今回も御自身のお名前の由来から始まって、「聴聞」の耳で聞いて納得してお腹に落とす（落ちる）流れをわかりやすく説明いただきました。「誰にも代えられない命」ということがストンと身体の中に落ちる実感を少しだけですが分かった気になりました。

親鸞聖人の基本の教え、「両手を合わせて南無阿弥陀仏」を称えます。人は誕生してから命終わるまで殺生を繰り返して生きていきます。そして同じように各人割合は違えど「善」と「悪」も避けられない生き方になります。この罪深い人間を阿弥陀如来が皆救って「浄土」へ導いてくれるのです。

越後国府での流刑時代の親鸞聖人と貧しい娘チヨとの出会いとチヨが身売りされる場面でのチヨの悟った（光明を見つけた）言葉。「今から私はどうなるのか怖いけれども、親鸞さんは南無阿弥陀仏とともなれば、皆救われるし浄土でまた会えるとおっしゃった。お父さん、お母さん、一家が助かるなら私は頑張って生きていけます・・・」。私には講談のように八〇〇年前の寒村の風景が浮かんできました。

このような法座様式（節談説教）はのちの落語や講談へとつながっていったのがよく分かりました。

「思い通りにしたい自我の欲望と思い通りにならない現実とのギャップが苦」であろうと思います。その「苦」と向かい合いつつ、自分自身に問い続ける生き方が基本であろうと今回も思いました。理解度は遅々としてはいますが、直に法座を聞けるのは有難いことです。

合掌

レポーター役　おいさん

# 皆作・永代経法要ご案内

よい天気が続きます。皆さまいかがお過ごしですか？御法座を左のように開催致しますので、どうぞお参りください。

●日時　六月二十四～二十六日

| 日時 | 午後一時半～ | 午後七時半～ |
|---|---|---|
| 二十四日（土） | 法話 | 法話 |
| 二十五日（日） | 法話 | 法話 |
| 二十六日（月） | 法話 | |

●講師

松月　博宣　先生　二十四～二十五日昼席

糸島市　海徳寺前住職

＊本願寺派の布教使の重鎮として全国区の活躍をなさっています。

## 松月先生のコメント

人は環境に育てられます。私たちは「仏さまのお話」を聞くことのできる環境に恵まれました。次の世代に同じ環境を整えていくことも「永代経」を勤めお参りする意味だと思います。

# 法座予定

二〇一七年

●盆法要

八月十六（水）～十七日（木）

＊上高屋地区のみのご案内です。

●秋彼岸法要

九月二十三（土）～二十五日（月）

講師　藤谷　知道　師（宇佐市）

二十四日（日）夜　落語会

●ご正忌・報恩講

十一月二十一（火）～二十四日（金）

長倉　伯博　師（鹿児島市）

## 新総代さんのご紹介

これまで上高屋地区の総代は、Mさん、Yさんでしたが、Iさん、Sさんが新たに就任されました。よろしくお願い致します。

Iさん

Sさん

Mさん、Yさん

これまで、ご苦労様でした。今後もよろしくお願いします。

## 納骨堂・新役員さんのご紹介

会長・N　さん

任期により、これまで会長・Nさん、靖之、副会長・Iさん　会計・Mさん　さんから、新たに会長・中野正寿、副会長・白川和美、会計・村上知則さんに交代しました。

**Nさん　のコメント**

大変な時期に組合長を引き受けました。修理等があると思いますが、皆さんのご協力がないと出来ないので、よろしくお願いします。

会計・　M　さん

前役員さん、おご苦労様でした。何事かというと、度々お寺に足を運び、納骨堂雨漏りや会計ほかの管理に努力してくださいました。新役員さんよろしくお願いします。

# お寺の活動

●京都組同朋のつどい

4月10日行橋善徳寺さんにて春彼岸においでいただいた祖父江佳乃さんにご出講いただきました。熱のこもったお話に皆さん感激。念信寺門徒の方が祖父江さんにアラレをお土産にことづけてくださいました。祖父江さん、お喜びでしたよ。

●真宗入門講座

みやこ町地区は木井馬場即伝寺さんにて

若手住職の新しい試みで、初めての方にわかりやすく、クイズ形式で。皆さん大笑い。

●大好きだったおばあちゃんの中陰のお参り

涙が出るんだけど、その後、不思議に笑顔になるよ！なぜだろう？

## あとがき

平成32年3月に地元の上高屋小学校が閉校になるそうです。町の方では特別な行事は予定していないとのこと。上高屋校には、小規模校だからこそ出来るキメの細かい授業があると、森下校長は言います。地元から子どもの声がしなくなるのは寂しい限りです。

今年も半年が過ぎました。あっと言う間でした。「若い時は一日は短く一年は長い。年をとると一年は短く一日は長い」（フランシス・ベーコン1500年代・英国哲学者）。しかし、私は一日も一年も殊更短く感じます。おかしいなあ。少し調べて見たら出てくるわ出てくるわ、世の大人たち、時間が速く過ぎると思っている人の何と多いことか！古今東西有名な学者から一般人迄こぞって一日一年が短いと考えており、その理由と時間経過をゆるやかにする方法を、それぞれが自分の経験と解釈で意見を述べている。その多さに圧倒されながらも、殆どの意見にイチイチ共感できるのです。

①集中して（仕事がはかどって）時間が短く感じる。②ダラダラしていたら何もしないうちに時間が過ぎた。私はもっぱら後者のようです。当然の結論として、時間が速く過ぎることを気にするより中身を充実させることが大切なようです。あ！！後の半年もあっという間でしょうか！

4月20日犀川小組同朋会念信寺にて

●第1墓園は黒字化、健全経営。

第2墓園は、駐車場、水道設備完備。絶景、絶賛分譲中！

約150年の歴史をもつ上高屋小学校

3月25日墓園会議